

眼科医の取り組みから始まった 3 歳児健康診査の視覚検査

～和歌山県海南市・紀の川市の取り組み～

木戸 由美

かみいち総合病院 | 視能訓練士

健診業務委員会の木戸と申します。15年前から和歌山県で3歳児健診に携わっています。

私を視能訓練士の道へ導いてくださった眼科医は、多忙な病院勤務の合間を縫って地元の保育園で検診を行い、弱視・斜視の早期発見に尽力されていました。ある日、その医師のもとに7歳ではじめて不同視弱視とわかった子どもが受診しました。当時の3歳児健診のシステムは、アンケートによって視覚異常を検出する方法を採用していたことから、視覚検査の精度が不十分であり、改善策について眼科医の立場から地元、海南市に掛け合われました。これを機に、行政と保健師の協力を得て、平成13年より視能訓練士による視覚検査の実施が開始されました。その結果、従来方法と比較して異常検出率が向上し成果を上げることができました。

数年後、近隣の粉河町（現：紀の川市）でも保健師が不同視弱視の見逃し症例を経験し、海南市の取り組みを参考に健診精度向上のため行政に働きかけ、視能訓練士による視覚検査が導入されました。平成17年の市町村合併時、健診範囲の広域化による経費増の問題から視覚検査の実施継続について検討されましたが、「子ども達のために視覚検査は絶対に必要である」と保健師が尽力され、現在でも事業が継続されています。以降、保健師、視能訓練士、関連職種との連携をより強化して健診を実施しています。その一つとして、海南市、紀の川市専用の3歳児健診マニュアルを皆で相談して作成し、現在は個々の児

により対応できるよう取り組んでいます。3歳児健診に視能訓練士が参画することは、行政を含め保護者や保健師からの高いニーズがありますが、残念ながら健診に対応できる視能訓練士の確保が難しいのが現状です。健診に参画できるスキルを備えた視能訓練士の増員が重要課題になっています。（表：各市における3歳児健診の概要：2019年4月1日現在）

	海南市	紀の川市
参加者	視能訓練士1名 コメディカル1名	視能訓練士2名
実施年齢	3歳6か月	3歳8か月
実施回数	16回/年	24回/年
受診者数	25人前後/回	20人前後/回
屈折検査	レチノマックス (必要時)	検影法
立体視検査	なし	LANGI
視力検査	5m (0.1、0.3、0.5、0.7) の視標	
眼位検査	(斜視の有無) 眼球運動検査 (目の動き)	

【実際の検査の様子】



図1a



図1b



図2

まずは児に近いところで視力検査の方法を確認して(図1a)、検査内容が分かってもらえたら 5m 離れて本番の検査を行います(図 2)。児の理解度に合わせて、指さしでお答えしてもらったり、ランドルト環(視力検査視標の C マーク)を持って検査したりと工夫しています(図 1b)。最初は恥ずかしがっていましたが、目線を合わせてゆっくり説明すると、落ち着いてきて実施できました。右眼の検査の時は、ランドルト環を持って元気よく楽しんでしてくれました。左眼は指さしで上手にお答えしてくれました(図 2)。